

令和4年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
空白地域解消推進セミナー

外国人等の個々のニーズ把握とその分析に着目して



宮崎県 小林市 地方創生課
国際化推進コーディネーター 満留 由紀子
令和4年12月1日

宮崎県 小林市の概要①



【在住外国人の変化】

2012年…290人



2022年… 512 人(1.2%)

【在留資格】

技能実習生の増加!

1位…技能実習2号口 (183人)

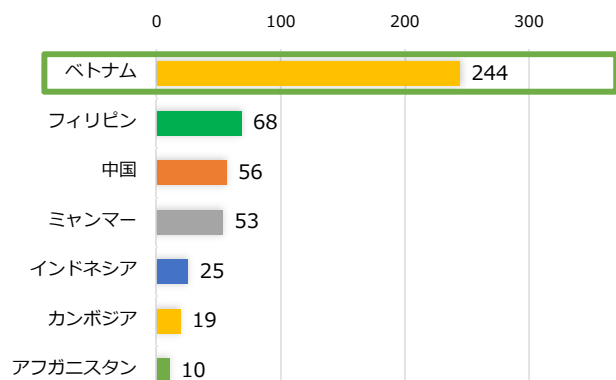
2位…特定技能1号 (69人)

3位…技能実習3号口 (68人)

4位…永住者 (64人)

5位…特定活動 (36人)

国籍別在留外国人 (2022年6月1日現在)



【2016年度】 国際化推進コーディネーター起用
【2017～2018年度】 市の事業として日本語教室を運営

にほんごサロンの立ち上げ

- 在住外国人と日本人住民の交流促進
- 日本語教室のボランティア候補の掘り起こし
- 在住外国人への生活情報の提供

運営時の問題点

- ・ 学習者と支援・運営側の**目的意識の差**を埋めることができなかった
- ・ **ニーズ**に合った内容になりきれなかった
- ・ 運営側・日本人ボランティアに日本語教育の**専門家が不在**
『地域日本語教育の場』に昇華させることが困難

【2019年度～】
地域日本語教育スタートアッププログラム活用

- ・ 文化庁より専門家の派遣
- ・ 時間をかけて、教室のあり方を検討
- ・ 文化庁の事業に参加！【現在4年目】

これまでの主な取り組みと実績

令和元年度
(1年目)

1年目：基盤づくり

- ・ 庁内職員への意識啓発
- ・ 市民ボランティア候補発掘

庁内職員向けアンケート
職員向け研修
市民向け講座



令和2年度
(2年目)

2年目：試行

- ・ 教室運営の中心の役割を担う人材を確保
- ・ 企業向けアンケート
- ・ プレ教室試行（技能実習生）

キーパーソン発掘
企業向けアンケート及びインタビュー調査
29年度実施アンケート精査（再整理）
プレ日本語教室活動

令和3年度
(3年目)

3年目：連携

- ・ コーディネーターの増員
- ・ 県・県国際交流協会との連携
- ・ 教室本格始動
- ・ サポーター育成

小林市地域日本語教室コーディネーター講座
市内外国人市民向けアンケート
小林市地域日本語教室サポーター養成講座
小林市地域日本語教室KIZUNA実施

令和4年度
(4年目)

4年目：連携・次年度に向けて

- ・ コーディネーターの増員
- ・ 企業、高校生、警察署との連携
- ・ サポーター育成
- ・ 教室実施

小林市地域日本語教室サポーター養成講座
～フォローアップ編～
小林市地域日本語教室KIZUNA実施
(中心地型・アウトリーチ型)
職員研修

日本語教育に関する調査と事業の関係

翻訳言語:英語・中国語・ベトナム語・タガログ語

方法:郵送

回収率:41%

結果:言葉、災害、育児

効果:国際化・多文化共生推進計画策定へ

日本語教室の必要性（文化庁）

H29在住外国人向けアンケート

回答数:127

結果:言葉、イベント

効果:2年目プレ教室を試行するにあたって参考資料

在住外国人向けアンケート（再整理）

翻訳言語:英語・中国語・ベトナム語・タガログ語

方法:郵送

回収率:18%

結果:言葉、日本語のニーズ、コロナ関連

効果:4年目教室づくりの参考

R3在住外国人向けアンケート

3年目

2年目

4年目

R1庁内職員向けアンケート

1年目

方法:庁内メール

回収率:98%

結果:窓口のある課、温度差

効果:職員への取り組みに対する意識啓発が重要

日本語教室の普及促進

R2市内企業向けアンケート

方法:郵送

回収率:40%

結果:言葉、文化・習慣

効果:3年目教室のテーマの指針
外国人を雇用する企業との関係性構築

R4企業訪問ヒアリング

訪問社数:22

結果:言葉、文化・習慣、買い物、ごみ

効果:日本語教室周知、企業との関係性構築

調査を始めるにあたって

参考にした自治体の調査票

文化庁（共通利用項目）

ホームページ

糸魚川市（H26年度在住外国人アンケート調査）

市ホームページ検索→担当者よりヒアリング→資料を共有

国際化・多文化共生担当者

京丹後市（第2次京丹後市多文化共生推進プラン）

研修→調査票と多文化共生推進計画の共有

市議員

安芸高田市（H23多文化共生アンケート調査）

H29とR3「小林市外国人市民向けアンケート」

調査項目	回答者の属性	普段の生活について	日本語能力について	医療について	市の支援について
調査内容 (抜粋)	性別・年齢、 出身国 在留資格 滞在年数 居住理由・環境 雇用状況・形態	情報の入手方法 言葉が通じない 場面 相談相手 差別・偏見	日本語の学習 経験 日本語の学習 状況 日本語学習を していない人の ニーズ	病気になった時 の相談相手 対処方法 受診時の言葉 医療サービスへ の要望 通訳サービス	広報紙について 交流の場所 住みやすいまち づくりへの要望 市からの必要な 情報 災害、避難所
参考にした 自治体等	文化庁 糸魚川市 京丹後市 安芸高田市	糸魚川市 京丹後市 安芸高田市	文化庁 安芸高田市	糸魚川市	糸魚川市 京丹後市 安芸高田市

教室をどういった場にしていきたいのか？「教室？居場所？」

- 小林市➡顔の見える関係性、居場所づくり
- 『外国人市民向けアンケート』で外国人市民のニーズを拾い上げることが大事

企業が求める日本語教育と外国人の求める日本語教育には「ずれ」があるかもしれない。それを把握したうえで教室づくりの視点が必要

- 『企業向けアンケート』で企業の外国人雇用に関する現状とニーズ把握が必要

アンケートでは距離を感じるなので、キーパーソンになる人と一緒に動いていくことが大事

- 日本語教室や交流イベントに参加していた外国人市民へ声かけが必要

アンケートの結果を教室のカリキュラムに反映できるよう設問を作成してみては？

- 普段の生活、医療、日本語能力、市の支援などの設問を設け、教室のテーマへと反映させる

アンケートを実施していくとき

- ある一定数の回答が必要
- 目的に合わせた設問
- 回答者目線でアンケートを作る
- アンケートを取る側の意図・目的の明確化
- シンプルに、短時間に答えられるように作る

アンケートの目的を明確化する

1) 課題を明確にする

- 例：H29/R3外国人市民向けアンケートより
- 言葉が十分に通じなくて困っている
- 日本語を勉強したいが、仕事・育児等が忙しくてできない
- 自宅や職場から近い場所なら日本語教室に行きたい

2) 課題を解決する方法を導き出す

- 日本語教室開催を検討
- 教室を開催する曜日・時間・場所（中心地/アウトリーチ型）を検討
- 対象者の属性の違いを明確化（例：技能実習生・日本人の配偶者等）

3) アンケートをどのように利用したいのかをイメージ

- 例：日本語教室の役割を外国人の方のニーズとマッチさせたい
（居場所、交流）
- 日本語教室のテーマを決定するのに、外国人のニーズを知りたい
- 教室でできること、市の情報提供等でカバーできることを明確化

目的を明確にしていると…

- 結果の目的がわかると、どう設問を作ればいいのか、どう分析すれば良いのかも見えてくる。
- 調査したい対象もはっきりし、分析までスムーズに行える。

今後の展望

調査、研修、会議等とおして
教室のテーマや目標を明確化していく。



KI・ZU・NA（絆）

日本語教室KIZUNAが・・・

- 自分らしさを表現できる場所
- 相談も兼ねる場所
- つながる場所（関係団体、地域、サポーター等）



ご清聴ありがとうございました。



宮崎県 小林市役所 地方創生課

国際化推進コーディネーター 満留（みつどめ）由紀子
Email: k_kokusaika@city.kobayashi.lg.jp

